

サンポール 今月からHD体制に移行

新規事業・新製品で業績伸長へ



山根社長

鉄・ステンレス製車
止め・アルミ旗ポール
で国内トップシェアの
サンポール（本社・広
島市中区、社長・山根
令氏）は10月1日付で
持ち株会社（HD）体
制へと転換した。休眠
していたタイコー産業
を「サンポールHD」
に変更、サンポールを
完全子会社化し、山根

社長が代表を兼務する。事業の多角化を見据え、社員のアイデアから生まれてくる複数の子会社がHDに連なる形とする構え。将来的にはタイのグループ会社・ヨーロッパアンフラッグポールもHD傘下に入れる予定。

同社は旗ポール・車止めで高いシェアを占めるが、両分野とも国内は成熟市場であり事業成長が難しい。HD化は風通しの良い社内風土を形成し、自社の鋼管加工技術を核としながら、社内から湧き上がってきた新規事業を立ち上げる垣根を低くするなどの狙いがある。

山根社長は「創業以来の企業理念『小さなマーケットの大きなシェア』を体現し、今後生まれるであろう小さな事業を束ねていきたい」と話しており、子会社の創出は、優秀な若手のポストを増やすことや定年を迎えた社員が働ける場の受け皿作りも兼ねるといふ。

今9月期は売上高54億円強で増収の見込みとしており、HD体制での中期目標では、売上高80億円へと引き上げる成長の絵図を描いている。

基本的には新規事業の模索は自社で行うが、本業とのシナジー効果が見込める案件であればM&Aも視野に入れる。子会社を任せられる人材育成に向けて、中堅社員のマネジメン強化の社外研修を実施している。

付加価値が高い新製品開発も並行して進めており、自動車衝突時の耐衝撃性能を高めた「インパクトブロード」といったヒット製品も生まれている。2015年以降に市場投入した新製品の売り上げは全体の10%以上を占めており、今後も年間で五つの新製品の開発を継続する方針だ。

生産・物流体制も整える。遠隔地への輸送が問題となる2024年問題への対応としては、東日本への安定供給のため物流会社と組んで在庫保管置き場を構築すること、関西以東の物流面を強化する方針。

先月、本社近接地に購入した1万平方分の土地については、老朽化を見越した本社工場の建て替えや生産体制の見直しに活用する。